

仙台空港アクセス鉄道 経営安定化対策「上下分離」【概要】

平成23年10月20日
宮城県土木部空港臨空地域課

《上下分離実施までの経過》

仙台空港アクセス鉄道は、東北地方の拠点空港である仙台空港と仙台駅を直接結ぶ公共交通として、本県のみならず東北全体の経済発展を支える県民共有の重要な社会資本です。

しかし、仙台空港アクセス鉄道は、全国的な航空旅客の減少などにより、数年内に運営資金の枯渇が見込まれる厳しい経営状況にありました。そのため、県では、この鉄道が将来にわたって安定的に維持・継続できるよう、平成22年5月に策定した、仙台空港鉄道株式会社改革支援プラン・行動計画に基づき、平成23年10月に上下分離を実施しました。



▲運行を再開した仙台空港アクセス鉄道（10月1日撮影）

■ 仙台空港鉄道株式会社改革支援プラン・行動計画（平成22年5月策定）

- 1 仙台空港鉄道株式会社の財務構造の改善
 - (1) 経営の安定化対策 … 抜本的対策である「上下分離」の実施を検討
 - (2) 資金繰り対策
- 2 仙台空港鉄道会社と連携して取り組む収支の改善
 - (1) 収入の拡大
 - (2) 経費の節減

【目標】
財務基盤の確立
収支の改善

■ 東日本大震災（平成23年3月11日発生）

- 東日本大震災により 33億円（概算復旧費）の甚大な被害を受ける
- (1) 約半年の鉄道運転休止（10月1日全線再開）
 - (2) 金融機関借入金元金返済の本格化
⇒ 早ければ平成24年度にも資金枯渇（※災害復旧費用を全額補助金で賄った場合）

鉄道存続の危機

上下分離の実施（平成23年10月19日）

《上下分離後の収支見通し》

上下分離による鉄道会社の固定資産の切り離しと金融機関借入金の一括清算により、将来にわたって資金枯渇することなく、安定的に経営を持続できる見通しです。



《県民の仙台空港アクセス鉄道の発展に向けて》

今後は、県民の仙台空港アクセス鉄道として、仙台空港鉄道株式会社と連携して、これまで以上に鉄道のサービス向上や会社の収支改善に取り組むとともに、仙台空港のエアポートセールス、企業誘致など沿線地域のなとりりんくうタウンの街づくりの成熟化に取り組み、仙台空港アクセス鉄道のさらなる発展を図っていきます。

■ 仙台空港アクセス鉄道の「上下分離」とは

県が鉄道施設の一部（土地や橋脚など）を買い取り、その施設を仙台空港鉄道株式会社が借り受け、鉄道事業を継続していく形態。鉄道会社は、この売却代金で金融機関からの借入金を清算し、財務構造の改善を図るもの。

